

東京都初記録・稀な記録の鳥たち — 10

(写真は裏表紙に掲載)

稀な記録 カラフトムシクイ *Phylloscopus proregulus*

観察場所：八王子市大谷町／暁町 都立小宮公園

観察期間・発見者：第一発見者および初認日の詳細は不明ですが、2015年12月頃から当地でムシクイ類を観察との情報もあります。2016年4月8日、古山 隆氏(日本野鳥の会東京)が鳴き声(囀り)の録音と撮影画像により確認しました。4月23日にも観察されましたが、終認日についても詳細は不明です。

観察状況：コナラやクスギを中心とした雑木林で1羽を観察しました。高木の枝先でちょこまかと動き回り、木々を移動しながら、採餌していました。当日の天候は晴で無風、複雑な囀りも連続して聞かれました。原因はわかりませんが、この個体の尾羽は全て抜け落ちていました。淡黄色の腰(上尾筒)や淡色の頭中央線など本種の特徴が、撮影した画像により確認できました。(古山 隆)

解説：東京都でのカラフトムシクイは、2001年1月～4月に練馬区光が丘公園で1羽、2008年1月に杉並区和田堀公園で1羽の記録に次いで、今回が3例目の記録と思われます。

(野鳥記録委員 鈴木弘行)

稀な記録 ハシブトアジサシ *Gelochelidon nilotica*

観察場所：江東区青海3丁目地先 中央防波堤 新海面埋立地

観察期間：2016年9月4日、11日および18日

発見者：小笠剛裕氏、佐藤松範氏、笠原美穂子氏、山崎高志氏、樋口佳寿子氏、宮崎雅子氏、三間久豊氏

観察状況：1羽が埋立地内の海水面を飛びまわり、ウミネコが群れる岸辺によく降り立ちました。

解説：本個体の羽衣に褐色の幼羽等は認められませんので、成鳥冬羽と考えられます。ハシブトアジサシの場合、幼羽から第一回冬羽への換羽は8月の終わりごろから始まるとされていますが、三列風切や大雨覆の換羽は12月以降のようです。また第一回冬羽の上面は黒褐色味があります。都内(島嶼部を除く)での本種の記録は過去に幾例かありますが、直近では2007年の葛西臨海公園での記録となります。

なお、2016年8月27日～29日に小笠原諸島父島の二見港でもハシブトアジサシ1羽が観察されています。詳細については把握できていませんが、多くの方が確認しており、ネット上に写真が掲載されています。写真からはこの個体もやはり成鳥冬羽と推定できます。

(野鳥記録委員 三間久豊)

稀な記録 オニアジサシ *Sterna caspia*

2016年9月にオニアジサシが、葛西臨海公園と江東区の臨海部で記録されました。ともに類似した羽衣の若い個体であり、同一個体と推定されます。葛西臨海公園では9月10日ごろから数日間に渡り多くの方が観察していますが、発見者等の詳細は把握できていません。江東区での記録は以下のとおりです。

観察場所：江東区青海3丁目地先 中央防波堤 新海面埋立地

観察期間：2016年9月18日 午前9時頃

発見者：小笠剛裕氏、佐藤松範氏、笠原美穂子氏、宮崎雅子氏、三間久豊氏

観察状況：ウミネコ約500羽の群れに混じって堤防上で休息していた。9:15頃に北東方向へ飛び去った。

解説：本個体は、尾羽、各風切羽、肩羽に灰褐色味が強く、三列には幼羽模様も一部認められたので、第一回冬羽の個体と考えられます。9月に第一回冬羽個体というのには、やや違和感も有るかと思いますが、亜寒帯から温帯、南半球まで広く繁殖分布する種ですので、十分有り得るケースと考えます。

なお、東京都内でのオニアジサシの記録は、2014年の5月～6月に葛西臨海公園で成鳥夏羽が観察されたほか、島嶼部においては2016年小笠原諸島父島でも観察されています。

(野鳥記録委員 三間久豊)

稀な記録 イワミセキレイ *Dendronanthus indicus*

東京都内では稀なイワミセキレイが練馬区で記録されました。山階鳥類研究所の平岡 考氏より発見された方を紹介いただき、観察状況などをお尋ねしました。

観察場所：練馬区石神井町 岩淵史跡公園

観察期間：2016年9月24日

発見者：鈴木 K.氏

観察状況：午前9時の開園前の池淵史跡公園を覗くとシジュウカラ等に他の鳥が混じっていました。開門と同時に入り、イワミセキレイ1羽を確認し慌てて撮影しましたが、すぐに見失いました。9時頃に来た方と一緒に探しましたが、結局見つかりませんでした。観察できたのは私一人だけで、撮影時間は1分程度です。鳴き声は聞かれませんでした。尾羽を左右に振る行動が特徴的でした。(鈴木 K.)

解説：東京都の本土部では北区田端(不明年)、東村山市狭山公園(1980年代)、島嶼部では小笠原諸島(1892年)、八丈島(1922年)、北硫黄島(不明年)などの記録があります。

(野鳥記録委員 大塚 豊)

稀な記録 ムジセッカ *Phylloscopus fuscatus*

観察場所：八王子市片倉町 片倉つどの森公園

観察期間：2016年12月10日 8:30～11:00頃、12月11日 8:15～9:15頃

発見者：仁科研一氏

観察状況：公園の調整池の周囲にわずかに生えたヨシやガマの中に1羽が潜んでいて、時折、周囲のセイタカアワダチソウ等の草地や地面に降りて、小さな虫を捕食していました。近くに縄張りをもつウグイスと喧嘩する行動も2～3回見られましたが、どちらかと言えば、ウグイスの方から仕掛けていた感じでした。ウグイスよりは草の上など全身が見えるところに出てくる機会が多かったです。(仁科研一)

解説：眉斑の前方が白色で後方が黄褐色であることや、嘴が細いことなどが本種の特徴です。別の写真によると、この個体は尾羽の右側の一部が脱落しているようです。東京都では国立市(2004年)、板橋区荒川(2007年)、台東区上野公園(2012年)、江戸川区葛西臨海公園(2016年)の記録があります。

(野鳥記録委員 大塚 豊)

稀な記録 ミツユビカモメ *Rissa tridactyla*

山階鳥類研究所の平岡 考氏より発見された方を紹介いただき、観察状況などをお尋ねしました。

観察場所：大田区南六郷 多摩川河川敷

観察期間：2017年1月15日

発見者：成田 保氏

観察状況：多摩川河口に近い六郷端と大師橋の間の六郷干潟でミツユビカモメ1羽を撮影しました。21年間ほぼ毎日この場所での観察を続けていますが、本種は初めての観察撮影になりました。(成田 保)

解説：この個体はかなり成鳥冬羽に近く見えますが、雨覆の前縁部に黒色の幼羽が残っているので第2回冬羽と思われます。外洋性の本種は、伊豆諸島など島嶼部では普通に越冬しています。しかし東京都本土部では稀で、稲城市多摩川で1羽(1967年・1969年)、大田区大井埠頭で3羽(1970年)、江戸川区葛西臨海公園で1羽(2009年・他数例)などの記録が残っています。

(野鳥記録委員 大塚 豊)

フォト東京の鳥・32 **東京都初記録・稀な記録の鳥たち-10**
(記録の詳細は12～13ページの研究部レポートをご覧ください。)



<稀な記録> カラフトムシクイ
八王子市 都立小宮公園 2016年4月8日
撮影：古山 隆氏



<稀な記録> イワミセキレイ
練馬区 岩淵史跡公園 2016年9月24日
撮影：鈴木 K.氏



<稀な記録> ハシブトアジサシ
江東区 中央防波堤 新海面 2016年9月4日
撮影：三間久豊氏



<稀な記録> ムジセッカ
八王子市 片倉つどの森公園 2016年12月10日
撮影：仁科研一氏



<稀な記録> オニアジサシ
江東区 中央防波堤 新海面 2016年9月18日
撮影：三間久豊氏



<稀な記録> ミツユビカモメ
大田区 南六郷 多摩川河川敷 2017年1月15日
撮影：成田 保氏